

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)

【公開番号】特開 2003-205833 (P2003-205833A)

【公開日】平成 15 年 7 月 22 日 (2003.7.22)

【出願番号】特願 2002-4821 (P2002-4821)

【国際特許分類第 7 版】

B 6 0 T 8/52

B 6 0 B 35/18

F 1 6 C 19/18

G 0 1 L 5/22

【F I】

B 6 0 T 8/52

B 6 0 B 35/18 Z

F 1 6 C 19/18

G 0 1 L 5/22

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 11 月 15 日 (2004.11.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

又、前記ハブ本体 1 3 の中間部外周面で、上記外輪 6 の内周面に形成した複列の外輪軌道 1 1 a、1 1 b のうちの外側の外輪軌道 1 1 a に対向する部分には、内輪軌道 1 6 a を形成している。更に、上記ハブ本体 1 3 の内端部に形成した小径段部 1 7 に、このハブ本体 1 3 と共に上記ハブ 8 を構成する上記内輪 1 4 を外嵌固定している。そして、この内輪 1 4 の外周面に形成した内輪軌道 1 6 b を、上記複列の外輪軌道 1 1 a、1 1 b のうちの内側の外輪軌道 1 1 b に対向させている。これら各外輪軌道 1 1 a、1 1 b と各内輪軌道 1 6 a、1 6 b との間には、それぞれが転動体である玉 1 8、1 8 を複数個ずつ、それぞれ保持器 1 9、1 9 により保持した状態で転動自在に設けている。尚、図示の例では、上記ハブ本体 1 3 の内端部で上記内輪 1 4 の内端面よりも内方に突出した部分を径方向外方に塑性変形させる事により形成したかしめ部 2 0 により、上記内輪 1 4 の内端面を抑え付け、この内輪 1 4 と上記ハブ本体 1 3 との分離防止を図っている。この構成により、背面組み合わせである複列アンギュラ型の玉軸受を構成し、上記外輪 6 の内側に上記ハブ 8 を、回転自在に、且つ、ラジアル荷重及びスラスト荷重を支承自在に支持している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 0】

次に、図 1 2 ~ 1 3 は、やはり請求項 2 に対応する、本発明の実施の形態の第 6 例を示している。本例の場合には、保持リング 3 2 a の外周面の複数個所（図示の例では 4 個所）位置に平坦面部 3 6、3 6 を形成し、これら各平坦面部 3 6、3 6 に、それぞれ励磁部 3 4、3 4 を複数ずつ設けている。そして、上記保持リング 3 2 a の内径側にこれら各励磁部 3 4、3 4 を励磁する為の励磁コイル 3 7 を設けると共に、これら各励磁部 3 4、3

4 の周囲に検出コイル 3 5 を配置している。上記励磁コイル 3 7 への電力供給は、車体側から無線により行なう。その他の部分の構成及び作用は、上述した第 5 例の場合と同様である。